

〈かたち〉の変容

総合文化研究 13 号
目次

2	巻頭言	164	柴田勝二著 『中上健二と村上春樹 〈脱六〇年代〉的世界のゆくえ』 友常勉
6	バラードの変容、あるいはショパンの実験 関口時正	166	亀山郁夫著 『ドストエフスキー——共苦する力』 菅井健太
37	映画『オペラ・ジャワ』に見る ラーマーヤナの変容 青山亨	168	ベルトルト・ブレヒト著／谷川道子訳 『母アンナの子連れ従軍記』 千葉敏之
61	エドガー・アラン・ポーの200年 とその可能性 ——ゴシック、メランコリア、不在と反復について 加藤雄二	170	チャッタワーラック著／宇戸清治訳 『二つの時計の謎』 安永有希
78	〈遺書〉と〈物語〉の間で ——『こころ』『下』巻の〈かたち〉 柴田勝二	172	リュドミラ・ウリツカヤ著／前田和泉訳 『通訳ダニエル・シュタイン』 中神美砂
94	あべよしお『二重国籍者』と 「解放」のかたち ——日系二世の忠誠と反逆を越えて 李孝徳	174	ホミ・バーバ、W・J・T・ミッチェル編 上村忠男、八木久美子、粟屋利江訳 『エドワード・サイード 対話は続く』 Maja Vodopivec
119	多様化するイスラムのかたち ——「俗人化」のもたらす可能性 八木久美子	176	村尾誠一著 『中世和歌詩論——新古今和歌集以降』 金中
135	アイデンティティとしての宗教 ——「分断社会」北アイルランドを通して 尹慧瑛	178	ジョージ・M・フレドリクソン著／李孝徳訳 『人種主義の歴史』 相川拓也
150	講演記録〈文化のかたち〉 ひとつであり すべてであり ——清虚洞一絃琴 ～伝統、現在、そして未来へ～ 峯岸一水		
新刊紹介		書評	
160	沼野恭子著 『ロシア文学の食卓』 住岳夫	180	野平宗広著 『新しい意識——ベトナムの亡命思想家 ファム・コン・ティエン』 陶山大一郎
162	今福龍太著 『身体としての書物』 大澤俊朗	--	総合文化研究所 2009 年度活動報告 編集後記